

# 平成30年度 大洲市職員人事異動

## 市職員215人が4月1日付で異動

### 人事異動の基本方針

今年度の人事異動にあたっては、第2次大洲市総合計画に掲げる【きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～】の実現に向け、基本計画に定める施策をより一層推進するとともに、複雑多様化する行政課題に対し適切かつ迅速な対応を目指した組織体制の整備に努めました。

また、各職場の業務量や業務内容に応じて、効果的かつ適正に人員を配置するほか、長期勤務(概ね4年以上)となる職員を可能な限り異動を行うとともに、職員の適性や能力が生かされるよう、適材適所の人事配置に努めました。

- 1 主要な事務事業推進のための人事配置と職員派遣
  - ▽保険年金課内に「地域医療係」を新設し、効率的な地域医療体制の確保と救急医療体制の推進に取り組みます。
  - ▽観光まちづくり課まちづくり係の執行体制の充実を図り、大洲市版観光DMOの設立をはじめ、民間活力を生かした観光振興体制の構築や市民、事業者、関係団体との協働によるまちづくりに向けた環境づくりに努めます。
  - ▽農林水産課内に「農商工連携係」を設置し、農林産物の需要拡大と産業の振興に向け、農商工連携および6次産業化の推進に積極的に取り組みます。
  - ▽中山間地域などの道路管理業務の一部を委託し、民間活力の導入を推進するとともに、工事等検査業務の職員配置を嘱託化(職員OB)し、合理的な運用を図ります。
  - ▽ダム事業に係る用地事務や地元調整など一定の進捗が見られた段階を踏まえ、ダム対策課を治

水課に統合し、ダム関連の水源地域対策などの推進と肱川流域の治水対策を効率的に執行する組織とします。

また、肱川支所地域振興課内に「ダム対策係」を設置し、関係住民および自治会のサポートや本庁との連絡調整を行います。

- ▽第72回国民体育大会の終了に伴いえひめ国体推進課を廃止します。
- ▽認定こども園の整備などに向け、保育所と幼稚園の垣根を越えた取り組みを進めていくため、双方の仕事を経験し理解を深めるところを目的に、保育士と幼稚園教諭の人事交流を行います。
- ▽地方創生に関する政策立案や事業戦略策定を行うことができる人材を育成するため、内閣府地方創生推進事務局に職員を派遣します。
- ▽愛媛県との相互人事交流を継続し、農林水産課に「林業振興戦略推進担当」として県職員1人を課長補佐として受け入れ、県雇用対策室へ職員1人を派遣します。
- ▽本市の施策に係る情報の収集、発信などのため、引き続き愛媛県東京事務所へ職員を派遣するとともに、広域行政の推進による事務の効率化とサービス水準の向上を図るため、愛媛県後期高齢者医療広域連合および愛媛地方税滞納整理機構に職員を派遣します。
- ▽再任用制度を運用し、本年は退職職員41人のうち、課長級職員を含め24人を再任用します。

### 2 異動総数

- ▽異動総数 215人 (昨年度 221人)
- ▽異動率 30.1% (昨年度 31.0%)



### 新規採用 (14人)

- |                  |                  |                   |                   |                   |                   |                   |
|------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| (喜多保育所)<br>土居 春絵 | (肱北保育所)<br>豊田 汐音 | (新谷保育所)<br>谷岡 真衣  | (市立大洲病院)<br>富永 美里 | (市立大洲病院)<br>宇都宮希春 | (市立大洲病院)<br>徳森 鈴奈 | (市立大洲病院)<br>宮岡 咲希 |
| (税務課)<br>稲田 秀樹   | (市民生活課)<br>城戸香名子 | (保健センター)<br>楠本沙弥香 | (建設課)<br>岡田 裕太    | (下水道課)<br>明智 諭史   | (治水課)<br>中野 郁香    | (農業委員会)<br>土居友紀子  |

地域の安全を目指して

大洲市消防団入団式・役員改選

平成30年度大洲市消防団入団式が4月4日(水)、市役所大ホールで開催されました。

入団式には、今年度入団する42人を代表して、柿見陽介さん(肱北分団)に矢野正祥消防団長から辞令が渡されました。

式に参列した松田副市長は、あいさつで「これから起こりうる災害で、地域の力になることを期待している。団員と力を合わせ、けがのないよう活躍してほしい」と激励の言葉を送りました。

本年度入団した団員たちは、厳しい訓練や研修などに参加し、自己研さんに取り組んでいくことに



なります。今後、若い力が地域防災活動の中心的役割を担うことが期待されます。

また、任期満了(2年)に伴う大洲市消防団の役員改選が行われ、正副団長をはじめ、各分団の役員が次のとおり決まりました。

【敬称略】



団本部 団長 矢野 正祥

団本部	団長	矢野 正祥
団本部	副団長	和久 清一
団本部	副団長	岩田 福岡
団本部	副団長	山口 喜生
団本部	副団長	松田 裕之
団本部	副団長	万願寺 直記
団本部	副団長	白石 卓也
肱南分団	副分団長	久保 伸介
肱北分団	副分団長	谷本 直俊
肱北分団	副分団長	岡 達也

平野分団	分団長	松本 喜吉
平野分団	副分団長	菊池 英巳
南久米分団	分団長	吉月 剛
南久米分団	副分団長	三好 健二
菅田分団	分団長	西岡 裕一
菅田分団	副分団長	東谷 和典
大川分団	分団長	河内 裕治
大川分団	副分団長	松岡 慶幸
柳沢分団	分団長	山元 道稔
柳沢分団	副分団長	西岡 健二
新谷分団	分団長	矢野 秀次
新谷分団	副分団長	作森 謙二
三善分団	分団長	松本 邦彦
三善分団	副分団長	信尾 明男
栗津分団	分団長	楠野 孝壽
栗津分団	副分団長	都築 成俊
上須戒分団	分団長	林田 俊司
上須戒分団	副分団長	政所 周稔
長浜分団	分団長	大谷 和利
長浜分団	副分団長	大塚 勇二
喜多灘分団	分団長	宮田 勇志
喜多灘分団	副分団長	松田 春樹
櫛生分団	分団長	増田 智一
櫛生分団	副分団長	畑中 吉邦
出海分団	分団長	高岡 吉邦
出海分団	副分団長	増田 健次
大和分団	分団長	木下 浩幸
大和分団	副分団長	白滝 浩幸



白滝分団	副分団長	後藤 忠信
中央分団	分団長	二宮 孝志
中央分団	副分団長	金野 昭一
正山分団	分団長	稲田 弘安
正山分団	副分団長	上甲 秀樹
大谷分団	分団長	久保 壽男
大谷分団	副分団長	西山 秀幸
予子林分団	分団長	濱田 律朗
予子林分団	副分団長	松田 勉
河辺分団	分団長	徳見 和也
河辺分団	副分団長	五頭 祥介
女性分団	分団長	國井 幸恵
女性分団	副分団長	大藤 ユリ子

映画「赤い橋のある町で」完成

長浜地区を舞台にした映画「赤い橋のある町で」の完成発表会および関係者試写会が、3月25日(日)、長浜ふれあい会館で開催されました。

この映画は、「大洲長浜映画制作委員会」が企画し、県内で地域映画を手がける「ヒメブタの会」が制作しました。長浜大橋、肱川あらし、長高水族館など、地域の魅力が詰め込まれています。今後は、この映画により地域振興に努めるため、一般向けの上映会を実施する予定です。



大洲城50万人来城者達成

大洲城来城者50万人達成記念式典が、3月17日(土)、大洲城天守前で開催されました。大洲城は、平成16年9月1日より一般公開が始まり、3月4日(日)に来城者50万人を達成しました。記念すべき来城50万人目は、大阪市在住の小学6年生(来城時・5年生)の上野由騎(ゆき)さんで、認定証と記念品が贈呈されました。

式典で上野さんは、「一生のうちにあるかないかの出来事。本当によかった」と喜びの言葉を表しました。



平成29年度 土砂災害防止に関する作品コンクール表彰

国土交通省と愛媛県では、小中学生のみなさんに土砂災害防止についての理解と関心を深めてもらうため、毎年「土砂災害の防止に関する作品コンクール」を開催しています。平成29年度のコンクールでは、大洲市から小学生・絵画部門で3人が表彰されました。

※学年は、作品作成時のものです。

愛媛県砂防協会会長賞



大田 涼乃<sup>すずの</sup>さん  
(白滝小学校 5年)

国道交通事務次官賞



沖 田 結<sup>ゆい</sup>さん  
(肱川小学校 4年)



窪 美 晴<sup>みはる</sup>さん  
(長浜小学校 5年)

## 厳肅な雰囲気で永遠の愛を

少彦名神社参籠殿

修復後初の結婚式

大洲市菅田町にある少彦名神社参籠殿で、3月17日(土)、修復後初となる結婚式が行われました。

この日、式を挙げたのは、青木瞬さんと菜保さんで、ともに大洲市出身です。瞬さんが菅田町出身ということもあり、参籠殿での挙式を発案し、半年ほど前から結婚式を企画していました。

親族や友人ら約70人が参列した結婚式は、日本古来の伝統的な挙式スタイルで行われました。最初に、参進の儀として「花嫁行列」があり、神職と巫女に導かれ参籠



殿へ向かいました。三三九度の盃では、新郎新婦が交互にお神酒を飲み、夫婦の永遠の契りを結びました。そして、誓詞奏上でふたりが夫婦になることの誓いを読み上げました。

会場となった少彦名神社参籠殿は、少彦名命を祀る神社として、昭和9年(1931)、地元有志の寄付により建立されました。建物の一部を斜面に張り出して建てる「懸け造り」と呼ばれる建築法を採用していて、市内に残っている懸け造りの建築物の中でも最大規模となっています。

戦前にも挙式の会場として利用されていましたが、老朽化に伴い、使われる機会はなくなりました。このたび平成27年に完了した修復によって、本来の姿を取り戻し、再び挙式が執り行われました。

挙式後、新郎の瞬さんに式の感想を尋ねると、「とても厳肅な雰囲気で、身が引き締まる思いだった」と話していました。また、新婦の菜保さんには、これからのどのような家庭を築いていきたいか尋ねると、「笑顔がいっぱい、何でも話すことができる家庭を作りたい」と話していました。



## 水族館の復活を願って 高校生ビジネスプラン準グランプリ受賞

1月7日(日)に東京大学本郷キャンパスにて開催された「第5回高校生ビジネスプラン・グランプリ」で、長浜高等学校水族館部によるビジネスプランが準グランプリに選ばれました。このグランプリは、地域の課題解決や国際社会への対応などをテーマにしたプランを募集し、その独創性や経営資源などで評価されます。第5回グランプリでは、385校、3247件のエントリーがありました。

長浜高等学校水族館部は、毒を持つイソギンチャクにカクレクマ



(左：重松さん 右：梶岡さん)

ノミが刺されない仕組みを応用して、マリンスポーツをする人向けにクラゲ予防クリームを開発・販売するプランを発表しました。準グランプリを受賞した水族館部の重松さんと梶岡萌伽さんが、3月16日(金)、市庁舎を訪れ、清水市長に受賞の報告を行いました。

重松さんは、「多くの方からご支援をいただき、受賞することができた。本当に感謝している。商品化の課題もあり、これからも研究に力を入れたい」と話しました。清水市長は、「今後も研究に取り組み、成果をあげてほしい」と応援の言葉を送りました。

## 長浜の魅力をもっと30秒に詰め込んで

地域の魅力を30秒のテレビコマーシャルで紹介する「ふるさとCM大賞えひめ'18」の審査会が3月11日(日)、松山市総合コミュニティセンターで開催されました。県内各自治体から32作品の応募があり、一次審査を通過した25作品が上映され審査されました。

大洲市からは、肱川あらし予報会による「龍が風になる朝」を出品し、見事大賞に選ばれました。この作品は、冬の風物詩である肱川あらしを題材とし、長浜に宿泊した坂本龍馬が、長浜の魅力に感動している姿が描かれています。



大賞を受賞した肱川あらし予報会の濱田毅会長ら代表3人が3月23日(金)、市庁舎を訪れ、清水市長に受賞の報告を行いました。

濱田さんは、「大賞に選ばれて、とてもうれしい。CMは肱川あらしが発生しない春夏に放送されるので、今年は1年中肱川あらしが吹き荒れるだろう」と喜びの言葉を述べました。

大賞を受賞したこのCMは、県内のほか、岩手県や長崎県など計8県で年間200回放送される予定です。



## 高齢者叙勲

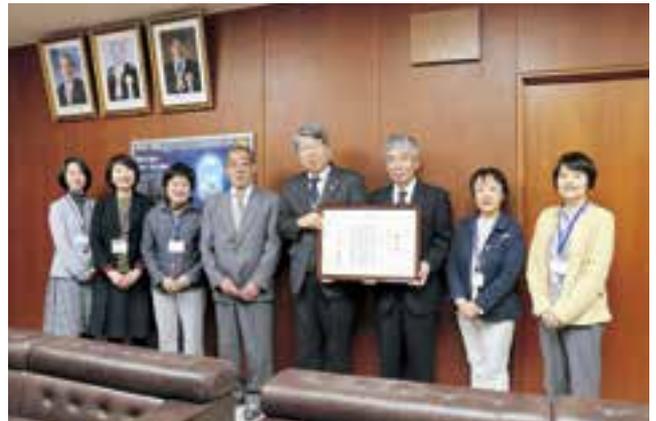


瑞宝双光章

沖田 <sup>たかし</sup>孝さん  
(西大洲)  
元公立中学校校長

沖田さんは、長年にわたり教育業務にご尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

## 積極的に子育てを支援



大洲市の家庭教育支援チーム「大洲子育てサポート“そよ風”」が文部科学大臣表彰を受けました。表彰は、特色ある優れた活動を行っている功績が認められたもので、3月22日(木)、清水市長に受賞の報告を行いました。

チームの代表である土居義彦<sup>よしひこ</sup>さんは、「受賞できて素直にうれしい。スタッフ全員の取り組みの賜物である。これからも、子育て中の人に寄り添う活動を続けていきたい」と今後の抱負を述べました。

## 地域おこし協力隊着任

肱川地域を中心に活動を行う地域おこし協力隊が、4月から新たに1人着任しました。着任にあたり4月2日(月)、辞令交付式が行われました。



中野 <sup>よし</sup>芳 <sup>まさ</sup>将 <sup>さん</sup>  
(肱川支所地域振興課)

### 【抱負】

「飲食店経営で培った知識と経験を生かして、原木シイタケを中心に特産品の開発や販売を通じて地域を盛り上げたい」

## 練習の成果を披露 ～第37回芸能発表会～

大洲市文化協会長浜支部主催の第37回芸能発表会が2月25日(日)、長浜ふれあい会館で開催されました。邦楽・吟詠・民謡・コーラスなど19団体が一堂に会し、日ごろの練習の成果を発表しました。

延べ400人を超す観客と舞台が一体となった素晴らしい発表会となり、会場を包み込む惜しみない拍手が鳴り響いていました。



## 菜の花畑で「だんだん肱川」

肱川流域会議水の中がね主催による菜の花を楽しむイベント「だんだん肱川」が、3月17日(土)、五郎畑の前橋下の河川敷で開催されました。

この菜の花は、国土交通省大洲河川国道事務所が認定する「肱川を美しくするお花はん」が管理しています。

星型やハート型に施された畑には多くの人が集まり、晴れわたる青空のもと、来場者は穏やかな春を満喫していました。



## えひめ国体・えひめ大会の開催を記念して

「第72回国民体育大会」「第17回全国障害者スポーツ大会」の大洲市開催を記念して、開催地である八幡浜・大洲地区運動公園(管理棟前)、鹿野川湖(鹿野川荘下駐車場)および大洲市総合体育館(正

面玄関)の3カ所に、「伊予の青石」を活用した開催地記念碑が完成しました。  
歴史に刻まれたこの会場で、多くの選手に活躍してもらいたいと思います。



## 1本のロープに思いを乗せて

第3回愛媛県小学生なわとび選手権大会が2月12日(月)、大洲市総合体育館で開催され、県内約380人の選手が参加しました。この大会は、全国なわとびスピードコンテストの四国地区予選会も兼ねていて、各部門で優勝した選手およびチームは、全国大会への切符を手に入れました。

大会で優勝した市内の選手ら21人が3月12日(月)、市役所を訪れ、名古屋市で行われる、第2回全国なわとびスピードコンテストへの出場の報告を行いました。訪れた選手たちは、清水市長に対し、「ノーマスで飛び切りたい」「前の記録を超える跳躍をしたい

と全国大会での抱負を述べました。

清水市長は、「ミスがないよう頑張ってもらいたい。練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい成績を残してください」と激励の言葉を送りました。

3月31日(土)、名古屋市で行われた全国大会では、ダブル部門6位、エイト部門2位を獲得するなど素晴らしい成績を残しました。また、シングル、ダブル、エイトのそれぞれの跳躍の回数を合計して争う総合部門においても、3位に輝くなど、大洲市の名を全国へ十分にアピールできた大会となりました。



# 大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

3月30日(金)、清水裕大洲市長が亡くなりました。市長には青年部の総会や、意見交流会などに出席いただき、多くの機会でお交流してきました。いまだに信じられませんが、新しいスタートを切らなければなりません。青年部を代表してお悔やみを申し上げます。

## 【今月のクイズ】

毎年行われている、大洲市新就職者激励大会は、大洲市で初めて就職した人を対象としています。

新就職者全員が参加するわけではありませんが、平成29年度の就職者激励大会の参加者は何人だったでしょうか。

- ① 45人
- ② 74人
- ③ 107人



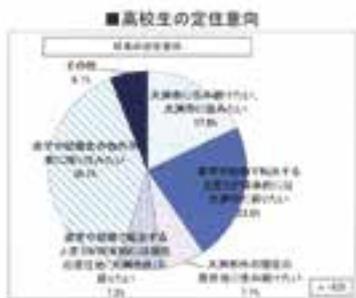
## 【4月号のクイズ解答・解説編】

大洲市内の高校生へのアンケートで、「大洲に住み続けたい」、「戻って働きたい・暮らしたい」と回答した生徒の割合はいくらでしょうか。

- ① 約15%
- ② 約23%
- ③ 約40%

正解：③約40%

第2次大洲市総合計画基本構想に高校生の定住意向アンケート結果が記載されています。回答した高校生425人のうち、「大洲に帰りたい」と答えたのは170人でした。生まれ育った大洲への愛着が感じられる結果となりました。雇用拡大の一步は、いかに地元でお金を使うかにあります。そこに生き残るヒントがあるのかもしれない。



第2次大洲市総合計画より

※今月号のクイズの答えは、広報おおず6月号に掲載します。

## 野鳥



コマドリ (駒鳥)  
スズメ目ヒタキ科  
全長 14cm

県内では、石鎚山系などで繁殖するヒタキの仲間です。亜高山帯のささやぶ近くに生息するため、めったに姿を見ることはできません。日本三鳴鳥に数えられていて、「ヒン、カラカラカラカラ…」と馬のいななきのような声でさえずるため、コマ(駒)ドリと名前が付いたそうです。

以前は、鳴き声を楽しむため、野鳥を飼育していました。なかでも石鎚駒と呼ばれるコマドリが特に有名で、昭和45年(1970)5月に愛媛県の県の鳥に制定されました。現在は「野の鳥は野に」の精神で、すべての野鳥の飼育は禁止されています。

5月頃には、中国南部で越冬したコマドリが、石鎚や北日本、遠くはサハリン、南千島の繁殖地へ向かいます。まれに公園などで出会うことがあるそうですが、渡りの中継地として温かく見守りたいですね。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

## 文化財



臥龍山荘 不老庵  
国指定重要文化財  
(建造物)  
大洲市所有

臥龍山荘は、木蠟の輸出で財をなした貿易商・河内寅次郎(新谷出身)が建てた別荘で、臥龍のふちをのぞむ肱川流域屈指の景勝地に位置しています。

山荘内には不老庵、臥龍院、文庫などの建物があり、延べ9,000人役で築いたとされます。

不老庵は、明治34(1901)年に建てられたかやぶき寄せ棟造り平屋建ての離れ座敷で、茶室を付属しています。最大の特徴は、建物の半分以上が川側にせり出した懸け造りです。柱には皮付きのスギ丸太のほか、生きたマキの立木をそのまま利用した捨て柱などもみられます。また、天井を半球状として、川面に反射した月明かりを室内に取り込む工夫なども施されています。

これら独創的な意匠から、数寄屋建築の傑作ともいわれています。

(平成28年7月25日指定)